ひと

地域との連携強化や会員のスキルアップに取り組む県医療ソーシャルワーカー協会長

小泉（こいずみ）　進（すすむ）さん（39）

医療ソーシャルワーカー（MSW）は、けがや病気、後遺症に苦しむ人や家族のサポートを通じ、社会復帰を後押ししていく仕事だ。県協会長として「県内のどの場所でも、必要な人が質の高いMSWに出会える環境を整えたい」と目標を語る。

秋田県横手市出身。高校2年の時に、父が交通事故で他界した。それまで自身の将来を真剣に考えたことはなかったが、「医療に携わりたい」と気持ちが変わり、MSWを目指して本県の県立大に進んだ。

卒業後は県内の病院や介護老人保健施設で働き、スキルを磨いてきた。「MSWの力量次第で、患者の人生が変わってしまう」。何が最適な対応なのかを常に考え、緊張感がある仕事だけに、やりがいも大きい。

県災害派遣福祉チームに登録し、2016年熊本地震など県内外の災害被災地でも活動している。大切な人が突然いなくなる悲しさや喪失感を知っているだけに「被害を受けた人の役に立ちたい」という思いは強い。

小さい頃から体を動かすのが好きで、たくさんのスポーツに挑戦している。休日は中学1年の長男瑛心さんと一緒にテコンドーに励む。盛岡市湯沢で義父母と妻、子ども3人の7人暮らし。

（久慈支局・平野祥子）